

<b>Headline:</b>	Singapore discovers cancer origins in stomach		
<b>Media Title:</b>	Hokkoku	<b>Date:</b>	2020-02-08
<b>Section:</b>	News	<b>Page No:</b>	08
		<b>Size:</b>	7x17

## 胃がん起源になる組織幹細胞

# 金大参加チームが特定

## 遺伝子変異重なるに変化

金大がん進展制御研究所などの国際共同研究チームは7日、胃がんの起源となる胃の組織幹細胞の特定に世界で初めて成功したと発表した。正常な胃の組織幹

細胞に遺伝子変異が積み重なると、胃がんの幹細胞に変化することも分かり、治療薬や治療法の開発に貢献することが期待される。研究チームは、傷ついた

胃の再生を担う組織幹細胞の細胞膜に「アクアポリン5遺伝子」と呼ばれるタンパク質が見られることを突き止めた。このタンパク質を目印にすれば、胃の組織幹細胞や胃がんの幹細胞をそれぞれ分けて集めることが可能になるという。

胃がんが発生することも確認した。金大がん進展制御研究所の村上和弘助教、シンガポールの科学技術研究所のニック・バーカー博士らが研究し、成果は英科学誌「ネイチャー」に掲載された。